

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和
新潟県山岳協会
新潟市南区鷺ノ木新田1049
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野巨寛
TEL 0258-52-3998



ご観戦される三笠宮瑤子女王殿下

去る10月3日(金)から5日(月)の3日間にわたり開催された二巡目トキめき新潟国体が無事終了しました。関係者の皆さん大変お疲れ様でした。開催期間中は天候に恵まれ、大勢の観客を迎えることが出来、それだけでも成功裏だったと思います。

今年、天皇・皇后両陛下御成婚50周年であり、天皇陛下

とに感謝します。これらの結果を残せたのは選手の努力は基より、これまで選手を育成し、指導を担ってくれました監督・コーチ等の並々ならぬ努力の賜であり、その苦勞に對して感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

競技団体のなかで山岳はなかなか会場が決まらず、安塚町立候補の連絡を受けたとき、安堵したものでした。何

その後、国体競技改革が始まり、「世界大会がない競技は廃止」の方向に沿って、山岳競技も縦走競技廃止の方向が出され、クライミング競技が主体となる事は時間の問題の時期となっていました。それを受けるために選手の育成強化にはどうしてもクライミング施設は絶対必然のものとして、関係機関に常設化の要望を重ねました。馬場顧問か

らも近隣の常設施設を視察までしていただきましたが、仮設で対応するという決定となり、予選会及び選手強化等は民間施設、県内公設体育館等に設置した施設で行って来ました。

さらに、競技役員も「日山協公認クライミング審判員」、「国体競技運営員」資格を有しないと大会運営ができない方針が打ち出され、競技役員を要請した関係者には、認定研修会を受講して頂き資格を取得しての協力を願ったのでした。限られた予算と要員の配分の中でどう運営するか悩んだのも事実でした。

しかしながら、昭和39年開催の第19回国体において、残雪期の飯豊連峰で県内岳人が結果して事故無くやり遂げた事に、自分達にも出来るんだという自負心を持ち、ここ数年の協会も国体シフトを取ることで了承を得ていたことを踏まえ、全国から来られる選手の皆さんが気持ちよく競技が出来るようにとの心構えで準備を進めました。

競技役員一同県予選会、北信越大会、基準会議、ジャパソカップ新潟大会、リハーサ

天皇陛下御座位20年記念 第64回国民体育大会(トキめき 新潟国体)山岳競技会を終えて

新潟県山岳協会会長 遠藤 家之進正和

御座位20年という記念の年に、新潟での二巡目国体を開催できることは喜ばしい限りでした。

成年男子ボルダリング競技第5位、成年女子ボルダリング競技第7位、少年女子リード競技第8位に入賞し、天皇杯15位、皇后杯10位の成績をあげてくれました。強化練習に耐え抜き頑張ってくれたことに感謝します。これらの結果を残せたのは選手の努力は基より、これまで選手を育成し、指導を担ってくれました監督・コーチ等の並々ならぬ努力の賜であり、その苦勞に對して感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。



成功を祈念してダルマに片目をいれる

成功を祈念してダルマに片目をいれる

さらに、競技役員も「日山協公認クライミング審判員」、「国体競技運営員」資格を有しないと大会運営ができない方針が打ち出され、競技役員を要請した関係者には、認定研修会を受講して頂き資格を取得しての協力を願ったのでした。限られた予算と要員の配分の中でどう運営するか悩んだのも事実でした。

しかしながら、昭和39年開催の第19回国体において、残雪期の飯豊連峰で県内岳人が結果して事故無くやり遂げた事に、自分達にも出来るんだという自負心を持ち、ここ数年の協会も国体シフトを取ることで了承を得ていたことを踏まえ、全国から来られる選手の皆さんが気持ちよく競技が出来るようにとの心構えで準備を進めました。

競技役員一同県予選会、北信越大会、基準会議、ジャパソカップ新潟大会、リハーサ

ル大会行事に実行委員会の立上げ、毎月の打ち合わせを重ねて本大会を迎えました。上越市との協働であることを踏まえ、自分の業務をマニュアルどおりに精一杯やってくれたものと自負しています。本当にお疲れ様でした。

安塚小学校、中学校、高校生、車椅子のほのぼの荘入居者等が見守る中、国内トップクライマーの一挙一動のパフォーマンスに秋晴れの安塚の地に声援が飛び交い、大会は十二分の盛り上がりを見せてくれました。これらを見て私は、これまで準備したことが本当に報われたなと思いました。又本県の選手にあつては、トップクラスの技術を観ることに、これからの研鑽に何かしら参考となったものと思っています。

二巡目の「トキめき新潟国体」が無事終了できた事は、選手・監督をはじめ、競技役員の方々が一致団結し対応してくれたことに他なりません。また、協会からも多数の応援に駆けつけていただき、心強く感じました。改めて厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

2009トキめき新潟国体・山岳競技を振り返り

第64回国民体育大会山岳競技

総務部長 片桐 一夫

『トキはなて君の力を大空へ』・『伝えよう感謝の気持ち』をトキめきをのキャッチフレーズに開催された、第64回国民体育大会 山岳競技会は、10月5日午後7時、無事に総合表彰式が終了して、45年ぶりの新潟国体山岳競技会が幕を閉じた。その瞬間、目頭が熱くなった。昨年の大分国体リハール大会を見学し、本大会の視察と進み、その後、毎月1回の準備会を繰り返して今日に至った想いが走馬灯のように走った。

競技会係員270名。中学生・高校生・競技補助員54名。そして地元の競技会補助員55名で合計488名の大役員団になった。ちなみに選手監督の数は、104チームで合計312名であった。

私が引き受けさせてもらった総務部では、21名の部員構成を得て、日々作業が進んだ事柄、反省するべき事柄などいろいろ思い出される。何しろ、45年ぶりの大行事を経験している協会役員がほとんどいないため、先催県のやり方を見学して覚えようということであった。山岳競技の役員団は、競技役員109名。上越市の

上越市安塚区が会場だったため、会場へのアクセスが難しく、さらに遠方からの来場者へ駐車場が少なく、トラブルが起きないか?。その2、リード競技を屋外で実施するので雨天になったら思わぬ問題が発生しないか?などであった。

案の定、競技初日の土曜日は、雨が朝方まで降り続けて競技会場がぬれていた。高山競技委員長に自らリード壁前の地面を雑巾がけさせてしまい、申し訳ないことになった。幸運なことにはその後は雨が降らず事なきを得たが、競技3日目の成年男子ボルダリング競技で選手監督の荷物置き場

分担は、運営全般の窓口・受付連絡調整・会議式典・その他である。総務部では、市村・伊藤・楡井の3名の方に副部長を引き受けてもらっており、そのうち伊藤副部長には10名の陣容で『受付連絡調整』を取り仕切っていたいただき、仕事をお任せした。受付は、『たかが受付・されど受付』であった。大会期間中に18回の受付業務がある。そして受付名簿の作成。これは競技役員の方々の頻りに変更。大会2週間前頃から伊藤さんは毎晩のように変更名簿を作り直し、私に送っ

(天幕)が狭すぎて、荷物が天幕より大きくはみ出していった。雨が降っていたらと思うとぞっとする。

一方、総務部の主たる業務は、運営全般の窓口・受付連絡調整・会議式典・その他である。総務部では、市村・伊藤・楡井の3名の方に副部長を引き受けてもらっており、そのうち伊藤副部長には10名の陣容で『受付連絡調整』を取り仕切っていたいただき、仕事をお任せした。受付は、『たかが受付・されど受付』であった。大会期間中に18回の受付業務がある。そして受付名簿の作成。これは競技役員の方々の頻りに変更。大会2週間前頃から伊藤さんは毎晩のように変更名簿を作り直し、私に送っ

てきた。この作業だけでも大変な仕事である。緻密な能力がなければ出来ないことだった。おかげで受付業務については、私はすっかり安心できていたのです。次に会議式典。この部門は市村副部長を頭に楡井さん他、その場で応援できる状態の部員が対応してくれた。ひな壇の垂れ札貼り、監督会議では104チームの監督席に、決められた位置にそれを貼り付けていく。何回もある個別競技の表彰式は、上越市実行委員会のスタッフが担当であったが、事前の作業打合せが出来ず、市村・楡井のお二人はこれを支援した。楡井さんは、運営全般の流れの中で、私の気がつかなかった業務を自らが発見し、



いつも混雑した受付



会場整備におおわらわ

選手監督の流れが滞らないよう、気をくばり、汗をかいてくださったことは、とてもうれしい出来事だったので。

次期開催県の千葉県から14名の視察員が来ていた。これらの方々には、昨年、我々が得た運営情報よりはるかにたくさんの情報を提供できたと自負している。また、私が出来るだけ対応したかった各県からの視察員対応（およそ150名）については、県山協の渡辺副会長がほとんど総合受付に居て対応下さり、ずいぶん助かりました。総じて言えば、総務部のすべての部員から献身的に仕事をこなしてもらった。細かいことも指示を受ければすぐに行動し、終われば必ず報告に来てくれた。

成年男子5位、女子7位、少年女子7位

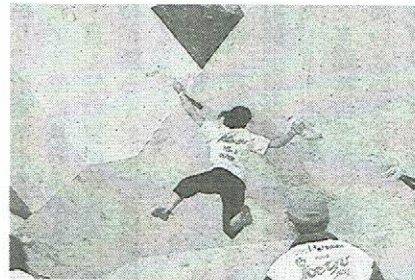
強化総括責任者 渡邊 正之

10月3日(土)から新潟国体山岳競技予選が始まって、5日(月)に4つの決勝戦が行われた。新潟県4種別出場チームの成績は、3種別でそれぞれ1枚ずつ賞状を手にすることができた。5年前の中期目標では、新潟国体で5種別すべてが予選8位以内に入って決勝に進み、最大7枚の賞状を獲得するとなっている。

大分国体では、成年男子がボルダリング競技で、成年女子がリード競技で、少年女子はリードとボルダリングの2つの競技で2枚の賞状を授与された。このダブル入賞があった。獲得した賞状は合計4枚であった。

成年男子リード競技では、新潟県平嶋元選手と岩橋由洋選手の個人順位は20位、46位と振るわず、チーム17位であった。

6月6日・7日同じ会場の同じリード壁で実施された第23回リードジャパンカップでは、個人戦が行われた。しか



ダイナミックな成年女子 片桐麻由子選手

もカテゴリーは男女別だけでなく、成年と少年の種別分けはなく、実力があると自負するならば中学生でも、小学生でも出場は可能である。この大会での男子優勝者は栃木県安間佐千選手であった。今回の国体でも、予選では最終クリップこそかなわなかったが、文句なしの個人1位であった。決勝ももちろん個人1位で、栃木県はチームとしても優勝した。

2位が千葉県、予選1位通過の宮城県が3位となる。宮城県チームは予選競技開始が45番目と遅く、その日のうちに

決勝戦とあって、腕のパンプ具合が回復せず、順位を落としてしまったと嘆いていたようである。チームとして予選7位の大阪府チームは、ふたりの選手の個人順位がともに15位となる。出場選手ふたりの間に大きな差が生じると、チーム成績が極端に下がってしまう。国体は団体戦であり、出場選手ふたりのチームワークを保つ上でも、実力が拮抗している選手を揃えることが大切のようだ。

成年男子ボルダリング競技では、昨年1位の宮城県チームが断然強く、予選も決勝も1位を保ち続けた。

堀創選手と松島暁人選手は、予選、決勝ともに他を引き離して個人1位、2位を続けた。安間選手の栃木県チームは予選を8位で通過、決勝でチーム2位となり、予選6位の広島県チームが3位となった。

わが新潟県チームは予選、決勝ともに5位であった。平嶋選手は予選、決勝ともに個人5位となる。

成年女子リード競技では、新潟県片桐麻由子選手個人16位、瀧澤倫未選手同じく26位となる。チーム9位となつて

決勝に駒を進めることがかなわなく悔しい思いを味わったと思う。

予選での完登者は、茨城県野口啓代選手、千葉県神原佑子選手、大阪府梶山沙亜里選手の3名だった。一番注目されたのは野口選手で昨年度のクライミング総合ワールドチャンピオンで、今回予選、決勝ともに個人1位であった。

リードジャパンカップ新潟大会には野口選手は出場しなかったが、榎原選手と梶山選手はこのときそれぞれ5位と6位に入賞している。またこのとき2位になったのは、山口県高校生小田桃花選手、3位は山梨県中学生安田あとり選手であった。

成年女子ボルダリング競技で、新潟県チームは7位に入賞した。片桐選手と瀧澤選手の実力は拮抗していて、予選個人17位と18位となり、決勝も順位をそのまま維持して7位となった。

ある選手曰く、野口選手は張りぼて部分を両足で挟み付けるように難なく登っていく。あんな登り方は自分にはとてもまねが出来ない。見ていて感心するよりも、あきれてし



躍動的な県外女子選手

大阪府は選手開拓・スカウトに成功したらしい。大阪府選手の頑張りには脱帽するしかない。成年男子でも東京都岳連が選手確保に本腰を入れてきたようだ。大都会は選手層が厚く、練習施設や環境も整っている。選手層が薄く、練習環境の悪い新潟県の選手が入賞圏内からはじき飛ばされないようにするには、どうすればいいのか。

ブロック選抜20チーム、選手40名のうちその4分の1が完登したことになる。

6月のリードジャパンカップでは、神奈川県新田龍海選手が6位、北海道杉本怜選手が7位、千葉県羽鎌田直人選手が11位に食い込んでいた。北信越ブロックからは富山県橋場友祐選手が29位とリザルトに名を連ねている。長野県中嶋渉選手と徹選手の兄弟は出場しなかった。リード競技予選では、2人とも完登の千葉県が1位、2位岩手県、3位北海道と続く。7位大分県と8位長崎県には完登者がいない。逆に佐賀県、埼玉県、静岡県は選手ひとり完登しているにもかかわらず、9位、10位、11位になった。

わが新潟県チームは19位に終わった。渡辺純選手が個人35位、伊藤源選手が34位であった。

決勝グレードは5-13bcと上がり、成年男子グレード5-13cと遜色ない状態になった。さすがに完登者はいない。個人1位は神奈川県新田選手、2位は長野県中嶋徹選手と北海道杉本選手の2人。チームとしては、岩手県が1位に上

がり、千葉県が2位に下がった。3位に長野県が入った。予選4位の富山県は大いに期待が膨らんだが、8位に後退してしまっただ。

少年男子ボルダリング競技では、新潟県渡辺選手が個人21位、伊藤選手が35位であった。リード競技よりボルダリング競技の方が入賞可能性の高いということ、3年来ボルダリングに力を入れて練習してきた。渡辺選手の右手首の状態を知っている伊藤選手は、最初から戦意を消失していたようだ。新潟県チームの順位は16位であった。

予選、決勝ともに中嶋兄弟の長野県チームが断トツと言っているくらい強い。2位は千葉県チーム、3位は杉本選手



成年女子 野口啓代選手 (茨城)

の北海道であった。

少年女子リード競技予選のグレードは5-12cであった。山口県小田桃花選手、同じく大田理姿選手、茨城県平井悠希選手、山梨県安田あとり選手の4名が完登した。

わが新潟県チームは予選7位になった。五十嵐妹子選手は個人15位、辻みらい選手は17位と健闘した。決勝では1位山口県、2位茨城県と固定したままで、予選5位の山梨県が3位に躍り出た。決勝4位と5位の静岡県と千葉県は、4名の選手の到達高度が21マイナスとまったく同じになった。したがって個人平均順位も9・5とまったく同じになる。

以前のルールであったならば、同率4位になる。現在は予選成績をカウントバックするので、静岡県が4位で、千葉県が5位と決まった。

新潟県チームは福岡県チームに抜かれて、8位に後退してしまっただ。残念である。

少年女子ボルダリング競技では、新潟県チームは9位に終わり、ほんのわずかな差で決勝進出を逃してしまっただ。成年女子のリード競技と同じ

く、悔やんでも悔やみきれない思いが残った。五十嵐妹子選手の個人順位は14位、辻みらい選手のそれは23位であった。予選、決勝とともに山口県1位、茨城県2位は固定したままであった。3位は山梨県と順位を上げた。山口県小田選手、山梨県安田選手が予選ではともに1位、決勝では小田選手1位、安田選手2位と勝敗を分けた。

昨年の大分国体では、少年女子入賞8チームの県名がまったく同じで固定して、リード競技とボルダリング競技では、ただその順番が違っただけであった。今年はさすがにそうはならなかった。昨年選手怪我で早々に入賞圏外から去ってしまった静岡県が、今年はリードとボルダリングの両方に入賞チームとして顔を出している。その分新潟県が入賞圏外にはじき飛ばされた感じがしないわけではない。来年の選手強化に早急に手を染めないと、千葉県国体に間に合わない。誰が中心となって選手強化をやってくれるのか。私自身、新潟国体が終わったことで、気力がまったく萎えてしまっただ。



ボルダリング競技成年女子7位入賞の
片桐麻由子・滝澤愉未選手



ボルダリング競技成年男子5位入賞の
平嶋 元・岩橋由洋選手



リード競技少年女子8位入賞の
辻みらい・五十嵐妹子選手



リード競技に挑む県少年女子選手



ベテラン選手の活躍も目立った
成年女子の遠藤由加選手（神奈川）



素晴らしい中学生の活躍
安田あとり選手（山梨）

JTB Your Global Lifestyle Partner

70th Anniversary

JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

<http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/>

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h_mitani388@jtb.jp

海外・国内旅行、主催・手配

JUMPING TOUR

ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第553号・IATA代理店（社）日本旅行業協会会員

本社：新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

□長岡営業所

〒940-0084 長岡市幸町1丁目3番5号

☎ (0258)33-7123

□新潟営業所

〒950-0910 新潟市中央3丁目2番11号

☎ (025)246-2266

第64回国民体育会

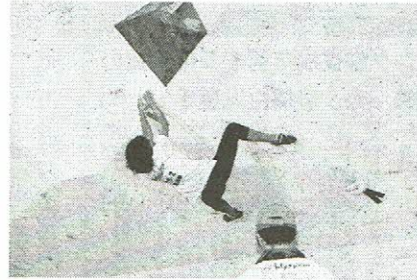
ボルダリング競技を終えて

ボルダリング競技副主任審判

今井浩二

単純で勝敗がわかりやすい競技ほど人々は熱中する。先ほど行われた世界陸上ではポルト選手の走りに世界中が熱狂した。ボルダリング競技も登れるか登れないかを競う単純な競技で、見ていて楽しい競技であると考えている。

「観客が集まってくれるのが心配。たくさん集まってくれればきつと盛り上がる大会になるだろう。」そう考えていた。しかしそれは杞憂に終わった。会場であった安塚B&G海洋センターの体育館には連日入りきれないほどの観客が集まり、大いに盛り上がった中で大会が進行していった。最終日の少年男子と成年男子の決勝では、観客席を競技エリア側に広げる措置までしたほどだった。観客も選手の登りを見ているうちに課題の難しさ等も分かかってきて、誰も達したことがないところまで選手が手順を進めると、場内



健闘する成年女子 滝澤倫未選手

女子の野口選手（ボルダリング・ワールドカップ2009年間ランキング優勝）をはじめとして世界でも活躍している選手が多く参加するようになってきた。この新潟国体もその傾向は続いている。そのような選手を迎える国体では万全の体制で迎える必要があると感じていた。開催までは、多くの会議を重ねてきた。山岳協会内での会議だけでなく、開催市町村である上越市との打ち合わせもあった。会議だけでなくリハーサル大会で役員、審判団の練習も行った。ジャッジの判定に対していくつかの疑問がでたが、それを見越した準備をしていたため、ビデオ判定等適切に対応できたとし、テクニカルインシデントのアクシデントもあったが、それもルール通り対応することができた。従って競技自体は問題なく運営できたのではないかと感じている。

審判、役員の方々には本当に感謝をしている。今まで、選手・監督として国体は何度か参加し、流れ等は把握しているつもりだったが、実際に運営すると全くと全く分らない部分が多く、皆さんにも

ご迷惑をおかけしたことが多くあったのではないかと反省している。それでも競技が滞りなく運営できたのは、各自、各ポジションでそれぞれ工夫し、動いてくださったからに他ならない。「チーム力」でも言うのだろうか、みんなでもやりのだらうか、みんなでもやり遂げたという満足感がある。



健闘する少年男子 渡辺純選手

登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス

ICI 石井スポーツ
新潟店

新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー

Parr Mark

パーマーク

長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>